

令和5年4月

第3回 湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議 発言要旨

【各団体における意見交換等を行った際に出た質問について】

● 座長

今回、「参考資料1」として配付しているが、湯来東小学校PTA、湯来南保育園保護者会が、それぞれの団体において意見交換等を行った際に出た意見等をまとめて、提出してくれている。

その中で、湯来東小学校PTAから出た質問として、「小中一貫教育校設置について広島市として実現可能なプランの幅を教えてほしい。」「湯来庭球場・運動広場は、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域になっていることから、候補地にはなり得ないのか教えてほしい。」といったものがあった。

この点に関して、教育委員会から回答することが可能であれば説明してほしい。

※ 教育委員会教育企画課

「広島市として実現可能なプランの幅を教えてほしい。」という御質問について、新たな学校の設置に当たり、検討する必要があるものとしては、教育内容やコミュニティの核としての機能などのソフト面のほか、施設整備などのハード面まで、多岐にわたる。また、予算の上限についても御心配いただいているが、新たな施設を整備する場合の予算については、先に上限額（いくらまでならOK等）が示されているわけではなく、要求した金額と整備内容が見合っているか等の観点で査定される。そうした意味でも、あらかじめ、ここまでは可能という幅をお示しすることは難しい。

この会議においては、まずは、地域の皆さんに、幅広く、できるだけ自由に意見を出していただくことが、学校と地域との連携という意味でも重要だと考えている。その上で、我々行政の方で、出していただいた意見を踏まえて取り入れられるものはできるだけ取り入れる、という方向で整理させていただければと考えている。

また、「湯来庭球場・運動広場は、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域になっていることから、候補地にはなり得ないのか教えてほしい。」という御質問について、湯来庭球場・運動広場は、このサンピアゆきの隣にあるが、グラウンドの半分近くが土砂災害特別警戒区域、いわゆるレッドゾーンとなっており、また、レッドゾーンではない敷地についても、大半は警戒区域、いわゆるイエローゾーンとなっている。前回の検討会議において、湯来西小・湯来東小の先行統合に係る御質問に対して、「湯来西小学校は敷地の一部が土砂災害特別警戒区域であることから、安全性の観点から考えると、統合先の候補とすることは現実的ではない。」とお答えしたが、学校は子どもたちが長時間過ごす施設であり、一般的に災害時の避難場所としての役割も期待されている点なども考慮すると、湯来庭球場・運動広場についても同様に、候補地とするのは現実的ではないものと考えている。

○ 構成員

1つ目の質問に関して、金額に係ることを中心にお答えいただいたが、教育内容についても特に制限はないのか。例えば、インターナショナルスクールにするといったことは可能か。

※ 教育委員会指導第一課

内容の幅に関して、小・中学校は学習指導要領において、各教科の目標・内容といったものが示されている。インターナショナルスクールというのは例として挙げられているものと思うが、学習指導要領に当てはまるかどうかというのが1つの条件になる。学習指導要領を逸脱するような教育内容を実施することはできない。一方、学習指導要領は大きな方針を定めたもので、細かい部分については定められていない。皆さんからアイデアを出していただく中で、学習指導要領に紐付けて、説明できるものであれば、ある程度の幅の教育内容は実施することができるようになると考えている。そのため、まずは様々なアイデアを出していただきたい。

○ 構成員

今の回答を踏まえると、現状、私立・公立も含めて日本で認められている小・中学校の形態であれば、学習指導要領に則っているということで、湯来地域に設置する学校にも導入を検討する対象になると考えてよいか。

※ 教育委員会指導第一課

基本的にはそうした位置付けになるものと考えている。

○ 構成員

2つ目の質問に関して、前回配付された資料において、例えば湯来中学校など、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の記載があった候補地については、リストには載っているが新しい学校を設置する候補地にはならないという理解でよいか。

※ 教育委員会教育企画課

そのように理解していただいて差し支えない。前回配付したリストについては、説明時にもお伝えしたが、土砂災害特別警戒区域等を含む土地についても、必要となる面積を満たす公有地ということで機械的にピックアップしたものである。

建築基準法上、レッドゾーンだから直ちに学校を建てられないということはないが、土砂を防ぐための壁を作る必要があるなど、対策のためには多額の経費を要する。また、先ほども申し上げたが、学校には、子どもたちの安全確保や災害時の避難場所としての機能等も求められている。

こうした中で、レッドゾーンとなっている土地に新たに小中一貫教育校を設置するのは現実的ではないものと考えている。

【小中一貫教育校設置に向けた一部先行統合について】

● 座長

開催案内でもお伝えしたように、前回、構成員からの質問を受け、教育委員会から説明があった「湯来地域において小中一貫教育校設置に先駆けて学校統合を行うこと」について、前回会議以降、湯来西小学校のPTAと地域の方々が話し合わせ、今回の検討会議で諮りたいことがあるということなので、まずは、説明をお願いします。

（湯来西小学校 PTA 代表より、資料1「湯来西小学校と湯来東小学校の先行統合について」を説明。）

● 座長

今の説明について、上水内地区町内会連合会から補足することなどはあるだろうか。

○ 構成員

学校は地域の核であることから、それがなくなることについて一抹の不安はある。一方、学校の現状を考えれば、致し方ないことだと理解している。当団体を構成する各町内会にも意見聴取したが、同様に、積極的には賛成しないものの、現状を踏まえれば仕方がないとのことだった。

● 座長

先ほどの説明のとおり、湯来西小学校は、令和6年度以降しばらく新入生が1人しかいないという状況が続く。同級生が1人もいないと寂しいというのは、構成員の皆さんも同様に感じられると思う。

当検討会議は、昨年9月の提言書を踏まえ、現在、5校の統合に向けた議論を行っているが、提言においては、段階的な統合については触れられていない。

今、提案されたように、5校の統合に先行し、まずは令和6年4月を目指して湯来西小・湯来東小を統合する、という段階を踏んで進めていくことについて、設置検討会議の皆さんの了承をいただければ、そのように進めていきたいと考えているがどうだろうか。

【反対意見等なし。】

● 座長

設置検討会議の皆さんから了承をいただいたところだが、このことについて、教育委員会としてはどうだろうか。

※ 教育委員会教育企画課

先ほど、上水内地区町内会連合会からも話があったが、学校の統合という、難しい問題について、保護者・地域の皆さんが、子どもたちのことを第一に考えて、苦渋の決断をされたものと理解している。

行政としても、皆さんのそうした思いをしっかりと受け止め、スピード感を持って準備を進めていきたいと考えている。

● 座長

それでは、湯来西小と湯来東小の先行統合については、当設置検討会議の協議とは別途、関係者で協議を進めていただくとともに、その進み具合については、適宜、設置検討会議に報告していただきたい。行政も大変だと思うが、協力をお願いしたい。

○ 構成員

先行統合について、当団体の構成員には決定したと伝えてもよいか。

● 座長

当設置検討会議としては先行統合について了承したため、今後は設置検討会議とは別に、湯来西小学校 PTA、上水内地区町内会連合会と行政が協議しながら統合に向けた準備を進めて

いただくことになる。

○ 構成員

行政はどのように考えているか。

※ 教育委員会教育企画課

先行統合について、保護者・地域の皆さんから御提案いただき、設置検討会議でも承認されていることから、行政としてもその方向で準備を進めていく。具体的な内容については、今後、湯来西小学校の保護者や地域の皆さんと協議させていただきたい。

【府中市立府中明郷学園の取組について】

※ 教育委員会教育企画課

資料の説明に入る前に、少し補足説明をさせていただきたい。

今回、広島県府中市の「府中明郷学園」を紹介させていただくことにしたが、これは単に県内で近い地域の事例であるというのが理由ではなく、府中市が市内の全ての小・中学校において小中一貫教育を行っており、その取組は全国的にも注目されているからである。我々も1月末に視察に行ったところだが、府中市内の他の学校も含め、毎週のように視察を受け入れているとのことだった（関東、北海道の自治体からも視察あり）。

特に、「府中明郷学園」は、中山間地域にある小中一貫教育校として、地域と連携しながら様々な取組を行っている。中でも、地元企業と連携したキャリア教育やコミュニティスクールの取組については、全国的に見ても非常に先進的であり、それぞれの取組で文部科学省から表彰を受けている。

さらに、規模的にも湯来地域に新たに設置することになっている小中一貫教育校に近く、参考になる取組が多いと考えており、そうした点を踏まえ、教育委員会として視察に行き、直接、現状を見聞きしてきたところである。

それでは、担当の方から資料に沿って、説明をさせていただく。

（担当者より、資料2「府中市立府中明郷学園の取組について」を説明。）

○ 構成員

説明のあった府中明郷学園は義務教育学校で、1年生から9年生まで1つの学校となっているようだが、一般的な小・中学校のように、小学校6年生の卒業式、中学校1年生の入学式といった行事はないのか。

※ 教育委員会教育企画課

府中明郷学園においては、9年間を見通した学びを重視する中で、小学校6年生の卒業式、中学校1年生の入学式は行っていないが、湯来地域に設置する小中一貫教育校においては、地域が小学校6年間の区切りを重視するのであれば、そうした行事を実施することは考えられる。

○ 構成員

「教科センター方式」の授業について説明があったが、この方式の具体的な効果を教えてほしい。また、導入するためには通常よりも教室数・スペースの確保が必要となると思うが、そのコスト等を上回るメリットがあれば教えてほしい。

※ 教育委員会教育企画課

通常の教科担任制は、教科担任が子どもたちの教室に行って授業を行うが、教科センター方式においては、英語教室、数学教室、社会科教室など、教科ごとの教室に子どもたち自らが移動して授業を受ける。この、学習の場所に自ら向かっていくということにより、主体性を育む効果が大きいと言われている。授業ごとに移動するため、子どもたちは多少忙しくなるかもしれないが、それを上回る効果が期待できることから導入されているものと考えている。

教科ごとの教室についても、例えば、社会科教室であれば地球儀や地図帳、国旗などを常に置いておくことで、通常の教室よりも専門的な学習に取り組むことができるというメリットがあると考えられる。

施設面でいえば、学級ごとの教室の代わりにホームベースという、子どもたちが各教科の教室に出掛けていくための基地のようなものを整備する必要があるが、ホームベースも、単なる荷物置き場にすることはなく、ホームルームを行ったり、昼食を取ったりなど活用できる。

いずれにしても、教科センター方式は、子どもたちの主体性を育むことに大きなメリットがあるとのことで、我々も視察し、そのように感じたことから皆さんに紹介させていただいた。

○ 構成員

今回は教育委員会のみで視察に行かれたとのことだが、今後、他地域に視察に行かれる際には当設置検討会議に情報提供していただき、都合の合う構成員が同行できるようになればありがたい。

○ 構成員

資料に「幼保小連携教育」とあるが、学校の敷地内に幼稚園・保育園があるのではなく、ソフト面での交流を行っているということでしょうか。

※ 教育委員会教育企画課

言われたとおり、学校敷地内に幼稚園等の施設があるわけではない。

取組の前提として、幼稚園・保育園での遊び中心の生活から、小学校に入ると45分間座って授業を受けることになり、子どもたちは切り替えに時間がかかったり、難しさを感じたりしやすい。こうしたことに対し、広島市においても「スタートカリキュラム」として、全ての小学校で幼保小連携に取り組んでいるが、府中明郷学園においては、地域の方も密接に関わりながら取組を進めている。例えば新1年生は一定期間、1時間目の授業時間に「むらさきラボ（地域が使える部屋）」に行き、地域住民と遊んだりして過ごしている。

また、新1年生と4年生でペアを作り、教室も隣同士にするなど、新入生が学校にスムーズに慣れていけるよう、しっかりサポートするという体制づくりを進めている。

○ 構成員

地域住民が使える「むらさきラボ」について、安全面はどうか。誰でもフリーパスで入れるのか。

※ 教育委員会教育企画課

地域用の出入口の鍵も管理されており、フリーパスにはなっていない。鍵は学校事務室で貸出手続きを行う。事前に借りておけば土日の利用も可能となっている。

○ 構成員

「教科センター方式」の授業について、自ら学習する場所に向かうことで主体性を育むとのことだが、例えば、人気のある教科に生徒が固まってしまうなど、運用上の課題等はあるか。

※ 教育委員会教育企画課

資料にも記載しているように、コロナ禍ということもあり、現在は運用を停止しているとのことだったが、教科ごとに生徒の偏りが出るのではないかと疑問に思われている点については、義務教育なので時間割が決まっており、その時間割のもとで、全員で各教科の教室に向かうことになるため、そうした状況が生じることはない。

○ 構成員

大変参考になる事例を紹介いただき感謝申し上げます。資料も非常に分かりやすくまとめていただき、勉強になった。

府中明郷学園は平成29年度に義務教育学校に移行したとのことだが、その際は、当設置検討会議のように、地域住民と協議しながら方針を決定したということでしょうか。

※ 教育委員会教育企画課

府中市は中山間地域に所在しており、児童数の減少も進行する中で、個別に地域との協議を行うのではなく、市全体で小中一貫教育を進めていくという、市としての施策の方向性の中で義務教育学校への移行が行われたものと理解している。

○ 構成員

資料に示されている学校教育目標等についても、地域と協議して作ったものではなく、学校や府中市教育委員会が定めたものと理解してよいか。

※ 教育委員会教育企画課

そうした理解で差し支えない。定められた目標のもとで学校運営が行われていく中で、コミュニティスクールなど、地域と密接に関わりながら取組が進められている。

余談だが、我々が府中明郷学園に視察に行った際、校長が都合により不在だったが、学校運営協議会の会長（地元企業の経営者）が同席され、教頭とともに学校見学の対応やコミュニティスクールの取組説明をしていただいた。会長によると、視察受入時にはできるだけ同席するようにしているとのことだった。

広島市も今年度から全ての市立学校でコミュニティスクールを導入しているが、府中市は10年程前から導入しており、取組の定着度が高い。地域住民が学校を頻繁に訪れ、花を植え替えたり、エントランスにある季節ごとのディスプレイの飾り付けをしたりしているとのこと、地域が学校に関わる敷居が低いように感じた。

【湯来地域に設置する小中一貫教育校に望むこと（グループワーク）】

グループごとの発表時の主な意見は以下のとおり。

- Aグループ（水内地区町内会連合会、上水内地区町内会連合会）
 - ・ 郷土愛を育み、将来、湯来地域に戻ってきたいという子どもたちを育てるために、地域の名人に会いに行くような取組をしてはどうか。また、学校に地域が使える部屋があれば、地域の方とのコミュニケーションが取りやすいのではないかな。
 - ・ ローカルな取組に加えて、グローバルな目線を持った取組をバランスよく行うことで、子どもたちの可能性を広げることができるのではないかな。例えば、ローカルな取組を進める中で国際バカロレアの資格が取得でき、海外大学への進学につながるような仕組みがあればよいのではないかな。
 - ・ 子どもたちが将来、湯来に帰ってくるためには、経営力が必要だと思う。そのために、府中明郷学園の模擬会社のような取組を積極的に取り入れていけばよいのではないかな。
 - ・ 学習のための学習ではない授業が必要だと思う。例えば、子どもが自分たちで小屋を作るような授業を取り入れれば、その過程で算数や理科も学べる。また、新たに設置する学校を湯来の木材を使った校舎にすれば、それを子どもたちが補修するといった取組を通じて学べることもあるのではないかな。
 - ・ 子どもたちの個性を伸ばすために、宿題をなくすというのはどうか。

- Bグループ（砂谷地区町内会連合会、湯来町観光協会、湯来東小学校PTA）
 - ・ 湯来地域の小・中学校で現在取り組んでいることの魅力をしっかりと掘り下げ、認識した上で、新しく設置する学校での取組を考えれば、見えてくるものがあるのではないかな。例えば、湯来東小学校では、これまで他地域の先進的な取組として紹介していただいた取組についても、既にやっているものが多くある。詳細は、「参考資料1ー1」を参照していただきたい。また、視察にも来ていただきたい。
 - ・ 現在、湯来地域で行われている質の高い教育や地域とのつながりをしっかりと踏まえた上で、新しい取組を検討していく必要があると思う。
(会議の進行等に係る意見)
 - ・ 会議後、各団体が意見交換等をして提出した資料は、参考資料として配付するだけでなく、内容についても触れるようにしてほしい。

- Cグループ（湯来西小学校PTA、湯来南小学校PTA、湯来中学校PTA、砂谷中学校PTA）
 - ・ 現在、湯来地域には5千～6千人が住んでいるが、これが50年後に2万～3万人になるなど、大幅に増加することは考えにくい。そうした中で、湯来地域の学校の存続を考えると、外部から子ども、保護者に来てもらえるような魅力的な学校にする必要があるというのは皆さんの共通認識だと思う。
 - ・ 外部から子どもに来てもらうことを考えると、寮があればよいのではないかな。併せて、若い世代が移住しやすいように、市営住宅を整備してはどうか。
 - ・ 広く、遊具がたくさんある公園を学校の近くに整備してはどうか。
 - ・ 幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校を近くに整備してはどうか。そうすると恐らく砂谷地区になるのではないかなと思うが、ある意味スモールシティのような、地域住民が生活しやすい、集約したコミュニティができればよいのではないかな。そうすれば、10年後、20年後も何とか学校を存続させることができるのではないかな。
 - ・ 義務教育である以上、学力の向上は必須だと思う。子どもたちの自己肯定感を育むために

も、学ぶことが楽しいと思えるような、学力を高めていけるような教育環境づくりが必要だ
と思う。

○ Dグループ（湯来保育園保護者会、湯来南保育園保護者会、杉並台幼稚園父母会）

- 本日説明していただいた府中明郷学園の取組について、非常によいものだと考えたため、その取組を中心に、教育委員会の担当者に質問しながら意見交換を行った。
- 湯来地域の子どもたちに、コミュニケーション能力、自分から発言できる力を身に付けてほしいと考えている。そのためにも、府中明郷学園が現在行っている、模擬会社経営の取組を導入してみてもどうか。学校の枠組みの中で自分を表現できなかった子どもが、模擬会社の中では自発的に取り組み、学校に評価されることで生き生きとした姿を見せているとのことだった。

湯来地域には、本日参加されている方が経営しておられる企業を含め、様々な業種の企業があり、そうした企業と学校との連携についても想定しやすいのではないかと。そうした連携のもとで模擬会社の取組を進めれば、非常に魅力的な教育ができるのではないかと。

そうした取組に必要な施設についても、新しく設置する学校に整備する必要がある。

- 新しい学校には、地域の伝統、郷土愛が引き継がれるものがあってほしい。また、学校と地域とのつながりを大切にしてほしい。そうした意味でも、府中明郷学園のキャリア教育は非常に参考になるのではないかと。
- 食の安全・安心、食育の機会の確保という観点から、自校給食としてほしい。そのためにも、調理室、配膳室が必要になると思う。給食は、子どもたちにとって非常に関心が高い事項であることから、地域の食材を使った献立として食育の機会としたり、模擬会社の取組の中でも、自分たちで企画した商品を全校生徒で味わったりするなどの展開が考えられるのではないかと。また、自校給食とすることで、地域の雇用にもつながるのではないかと。
- 広範囲の学校統合となることから、スクールバスによる通学が必要になると思う。

● 座長

グループワークを通じて様々な意見を出していただいた。これらに対し、教育委員会から何かコメントはあるか。

※ 教育委員会教育企画課

貴重な御意見を多くいただき、感謝申し上げます。この場で個別の御意見に対してコメントすることは差し控えるが、皆さんに発表いただいた御意見や、意見交換シートに書いていただいた内容については、しっかりと整理させていただく。

● 座長

座長、座長代理はグループワークには入っていないが、座長代理から何かコメントはあるか。

○ 構成員（座長代理）

先ほどの意見発表時には出なかったが、現在、湯来南小学校には放課後児童クラブがあり、湯来西小学校・湯来東小学校も放課後プレイスクールで子どもたちを預かってもらっており、親も安心して働いていると思う。当たり前のことかもしれないが、新しく設置する小中一貫教育校でも、子どもたちの放課後の居場所確保についてはしっかりと検討してほしい。

また、3つの小学校、2つの小学校を1つにするということで、統合により、子どもたちの

地域への愛着が薄れないように、例えば、学校のエントランスに湯来地域全体の特色を表現した象徴的な壁画など、ビジュアル的にも湯来地域全体が一緒になったことが表現できるようなものがあるとよいと思う。

● 座長

そろそろ閉会の時間だが、1点教育委員会に質問がある。先ほど、学力についての意見も出していた。今回紹介していただいた府中明郷学園は、湯来地域と同様に中山間地域に所在し、児童生徒数も、湯来地域に設置する小中一貫教育校と同じくらいとのことだが、この学校の学力は湯来地域の学校と比べてどうか。

※ 教育委員会教育企画課

全国学力学習状況調査というものがあり、それ自体は学校間の学力比較を目的にしたものではないが、令和4年度の府中明郷学園の小学生、中学生の問題の正答率を平均すると概ね六十点となっているが、湯来地域の小学生、中学生については、平均すると五十点台となっており、敢えて数字を比べると、府中明郷学園の方が少し高いという実態がある。

○ 構成員

前回紹介した先進的な学校の取組についての映画上映会について、現在、4月23日（日）開催の予定で準備を進めている。詳細が決まれば情報提供させていただく。また、本日紹介いただいた府中明郷学園を含め、設置検討会議構成員で視察に行く機会があればよいと思う。

（以上）